

交通機関選択時の「質」に関する一考察

- 北陸新幹線 VS 航空 -

金沢大学 理工学域環境デザイン学類	学生会員	○南	貴大
金沢大学 理工学域環境デザイン学類	非会員	杉田	亘
金沢大学 理工学域環境デザイン学類	非会員	玉森	祐矢
金沢大学 理工学域環境デザイン学類	非会員	松田	耕司
金沢大学 理工学域環境デザイン学類	非会員	山口	大輔
金沢大学 理工研究域環境デザイン学系	正会員	藤生	慎
金沢大学 理工研究域環境デザイン学系	正会員	中山	晶一朗
金沢大学 理工研究域環境デザイン学系	フェロー	高山	純一

1. はじめに

我が国の空港や高速交通網の整備は概ね完了し、国内移動の速達性は大きく向上した。近年では、2015年3月の北陸新幹線金沢開業、2016年3月に予定されている北海道新幹線の開業により、日本各地が高速鉄道網により接続される。これまで、交通整備は、所要時間、輸送力、運賃など「量」に主眼が置かれ整備が進められてきた。しかし、インフラ整備が概ね完了しつつある状況においては、移動の快適性などの「質」の向上を図ることも利用者の満足度を向上させる1つの方法である。そこで、本研究では、交通機関（新幹線・飛行機）を利用する際、利用者が求めている交通機関の「質」を明らかにすることを目的とした。

2. アンケート調査の概要

本研究では、利用者が交通機関選択時に交通機関に求める「質」を明らかにするためにインターネット調査を実施した（表1）。調査は2014年12月25日、26日に東京都・千葉県・埼玉県・神奈川県に居住する20歳以上の男女、さらに、過去5年以内に観光または業務目的で石川県に訪問したことのあり方を対象として調査を実施した。調査で得られた有効サンプル数は、観光目的が515サンプル、業務目的が515サンプルの合計1030サンプルであった。

調査項目は、交通機関選択時の選択基準、交通機関を利用する際の意識・行動、交通機関を利用する

表-1 アンケート調査の概要

調査実施日	2014年12月25日から26日
調査対象	東京都・千葉県・埼玉県・神奈川県居住者
年齢・性別	20歳以上の男性・女性
交通機関の利用目的	観光目的、業務目的
サンプル数	観光目的:515サンプル 業務目的:515サンプル
調査項目	交通機関の選択基準、意識・行動、頻度、予定決定時期など

図-1 調査画面

頻度、出張・観光などの予定を決定する時期・チケットの購入時期などを問うた。調査画面の例を図-1に示す。

3. 交通機関を利用する際の選択基準

交通機関を利用する際の選択基準の集計結果を図2に示す。「運賃・料金が安いこと」や「乗り換え等の移動や待ち時間を除いた実乗車時間が短いこと」

キーワード 新幹線, 航空, 質, 市場分析, 北陸新幹線, 小松空港, 市場分析

連絡先 〒920-1192 石川県金沢市角間町 金沢大学理工研究域環境デザイン学系 TEL076-234-4914

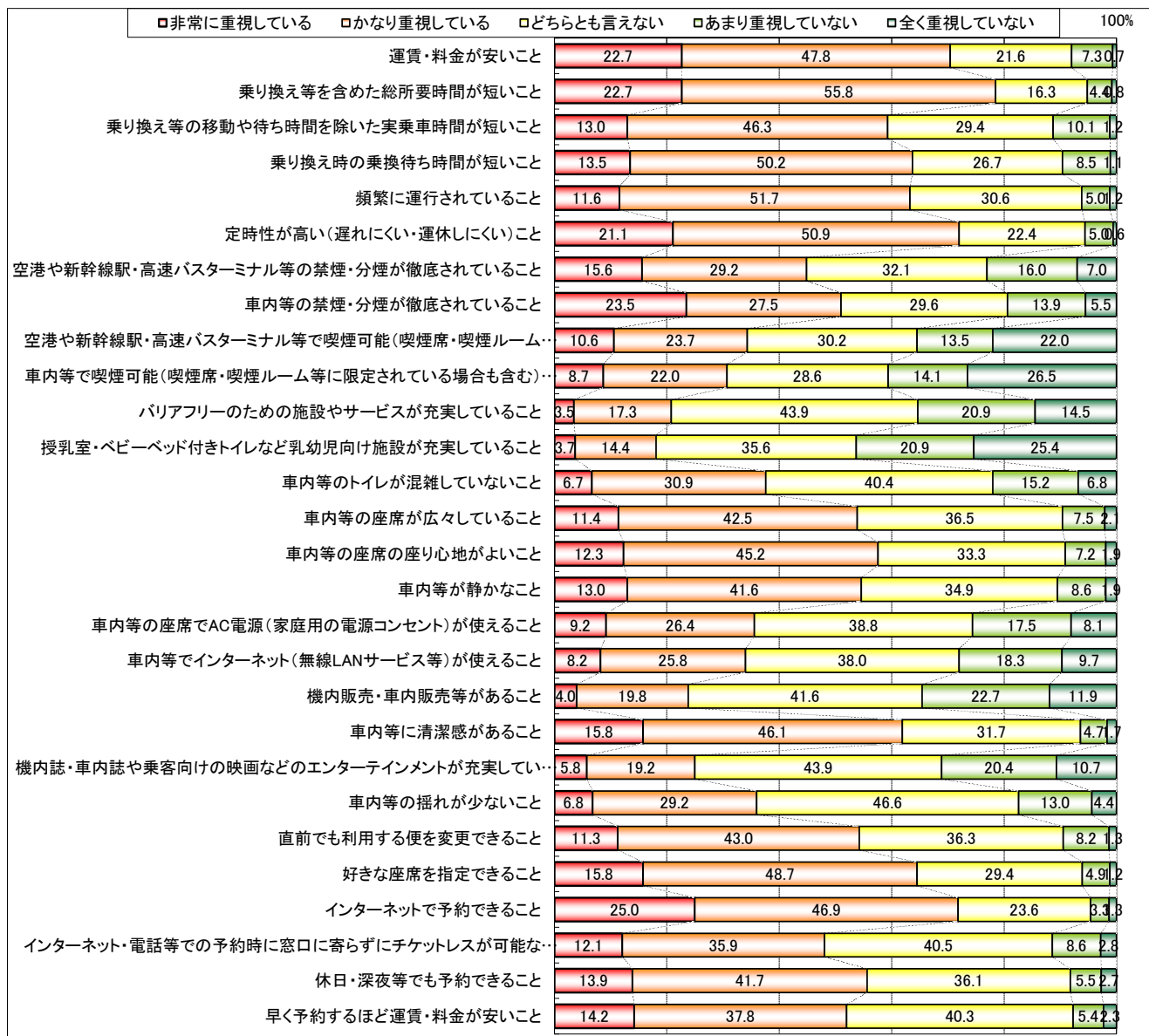


図-2 交通機関を利用する際の選択基準

は、重視すると回答した割合は両者とも約 70% 超であり、交通機関の選択基準として、主要な要素となっている。また、頻度や定時性についても高い割合で選択要因となっていることがわかる。以上は「量」の観点である。本研究で対象とする「質」の観点では、「車内が広々している」、「乗り心地が良いこと」、「車内が静かであること」、「分煙が徹底されていること」、「車内に清潔感があること」などで重要視すると回答した割合はいずれも約 50% であった。このことから、時間や費用以外にも交通機関の利用者は、移動中に「質」をもとめていると考えられる。一方、「車内等の座席で AC 電源が使えること」や「車内等でインターネット(無線 LAN)が使えること」の割合は、いずれ

も約 30% であり、それほど高くなかった。交通機関を利用する際の選択基準について基礎的集計を行った結果、運賃・料金が安いことに加えて、乗り心地や座席の広さなど乗車中の要素に加えて、座席指定ができること、インターネットで予約ができること、座席指定ができることなど乗車前のサービスも交通機関の選択基準の 1 つであることがわかった。

4. まとめと今後の課題

本研究では、過去 5 年間の間に新幹線または飛行機を利用して石川県を訪れたことのある方を対象に交通機関の「質」に関する調査を行った。その結果、時間・費用などに加えて、乗り心地や清潔感、予約の容易性などの「質」も選択要因の 1 つとなっていることが明らかとなった。